

平成21年度中間評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

年 度 当 初			評 価 結 果 （ 10 ）月			
評価項目	具体目標	具体方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1. 確かな学力育成	①わかりやすい授業をめざし、学習内容の精選、教材の工夫と共有化を図り、効果的な指導力の向上を図る。 ②授業評価アンケートを通して生徒の声を受け止め、授業改善につなげる。	①授業等で生徒の理解度に注意を払いながら、個に応じた指導を工夫する。 ②公開授業を各科・各教科1名ずつ実施する。 ③校内外の試験などを通して生徒の学習実態を把握・分析し学習意欲の向上を図る。	①授業評価を参考に生徒の理解を把握し、授業への工夫につなげている。 ②公開授業は順次計画どおり実施している。 (実施率は40%) ③進学模試の受験希望者が少なく、意欲の喚起に十分繋がられていない。	C	①学年、学科、教科で生徒の問題点を共有し、連携して問題解決にあたる。 ②積極的に進学模試の受験を促進する。また、校内外の試験などの結果分析を行い、学習意欲の向上へ繋げる。	
	①自己理解を深めさせ、生活目標・進路目標を確立させる。 ②自宅学習時間が理数工学科では2時間以上、工業科では1時間以上となること、30分未満の生徒の割合が3割未満となることを目標とする。 ③特別活動・委員会活動・部活動を通じ生徒の自主性・実践力を育成・伸長する。	①学習習慣の定着を図る。 ②授業・考查ごとに適宜生徒自身に自己点検・自己評価をさせる。 ③保護者との連携を深めるとともに、個別指導を徹底する。 ④委員会活動を各分掌・各学年で指導・支援し、生徒と職員が一体となって取り組むよう努める。	①自宅学習時間は、全校において30分未満の生徒の割合(26%)や工業科(平均65分)においては目標値の達成ができたが、理数工学科(平均68分)では減少した。 ②保護者の意見を尊重し、指導に取り入れている。 ③委員会活動では分掌での活動が多くなってきている。		①生徒に適した課題を提供し、勉強に対する意欲を促す。 ②入社試験の一般常識テストの対策を講じる必要がある。 ③生徒一人ひとりに対して、面談などで粘り強く指導する。 ④文化祭を機会として、文化部加入の呼びかけを行う。	
2. 豊かな人間性の育成	①日常的に生徒と関わる時間の確保に努め、個々の生徒の良さを認めながら意欲喚起を図る。 ②教職員が研修等を通して自己を振り返り、学ぶ姿勢を持ち続けるとともに「全教科・全領域での人権教育」を実践する。	①「Q－U調査」を全生徒を対象に年2回実施し、支援を要する生徒の把握に努め、分析結果から望ましい集団づくりを推進する。 ②差別解消に向けて教職員の一人一研修参加100%をめざす。 ③朝の交通安全指導をとおして、生徒と教職員との間に明るい人間関係をつくり、コミュニケーション能力を育てるよう、あいさつ指導を推進する。 ④学校と家庭との連携を密にして課題の早期発見と迅速な対応に努める。	①Q－U調査実施後、研修を行いクラスの実態把握をした。 ②人権教育の校外研修への参加者、特に夏季休業中の研修参加者が昨年より少なかった。 ③朝の交通指導で、交通ルールの遵守精神や挨拶の意識が高まった。学年、科と連携して生徒指導にあたる事ができた。 ④保護者との密な連携を図り、家庭と協力して生徒指導することができた。	C	①第2回はハイパーQ－U調査を実施予定。 ②校外の人権教育講演会などの紹介を引き続き行っていく。生徒の思いを汲み取り、意思交換ができる状況や関係を積極的につくるように努める。 ③校内外の巡視及び校内美化(清掃徹底)をさらに強化していく。 ④今後も教育相談係、学年、科、担任の連携を密にする。	
	①読書活動をとおして豊かな心をはぐくむため、年間の生徒一人当たりの貸出冊数が前年度比3%増となることをめざす。 ②各種ボランティア活動の年間参加率が昨年度以上となるよう努める。 ③命の教育である性教育に関する指導時間を年間2時間以上確保する。 ④TEAS(鳥取県版環境管理システムⅡ種)で掲げている今年度の環境改善目標の達成をめざす。	①図書室を利用した授業実践や企画展示、図書館便り等の広報活動に努めることで図書室の利用を促進する。 ②各種ボランティア活動への積極的参加を推奨する。 ③性教育に関する講演会やLHRをとおして、性への正しい認識を深めさせる。 ④管理美化委員の積極的活用を図るとともに、環境宣言の周知徹底を図り全生徒の取り組みとなるよう努める。 ⑤健康づくりのために食の環境整備を行う。	①図書委員による自主企画などは実施できた。図書室を日常的に利用している生徒はいるが、貸出冊数・利用者は減少している。 ②ボランティア等の取組は少なかった。 ③性教育講演会をとおして、知識を深めた。 ④TEASでのクラス役員の活用が定着している。 ⑤食育講演会をとおして、食習慣を見直す機会となった。		①図書室利用について、魅力ある書籍・館内の充実を図り、生徒アンケートの実施など生徒の意見を積極的に取り入れる。 ②冬のボランティアに向けて、生徒の参加を呼びかける。 ③性に関する教育の年間計画を構築し、12月に性教育LHRを実施予定。 ④引き続きクラス役員の活用を行う。 ⑤生活実態調査をとおして、さらに食育の意識を高めさせる。	
3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現	①各種資格・検定への受験を奨励する。 ②ものづくりの楽しさを実感させ、専門教科への興味・関心を育む。	①資格検定の年間スケジュールを提示し、資格取得や検定合格のための放課後補習や勉強会の指導体制を整え実施する。 ②検定やものづくりコンテスト等の実技指導を充実させ、各種競技会へ挑戦する意欲を醸成し、学んだ知識や技術を発展的な取り組みに繋げる。 ③各科毎の課題研究発表会を通して、引き続き探究心や表現力を養成していく。	①資格検定の受験の奨励や特別補習の継続的な指導に努めているが、生徒の意欲差がある。 ②各種資格取得補習の実技指導を社会人講師と連携をとりながら充実させた。また、各種競技会への挑戦、学んだ知識や技術を発展的な取り組みに繋げている。 ③本年度より課題研究の中で一部の生徒が鳥工版デュアルシステムを実施した。その他の課題研究も計画どおり各科毎に実施されている。	C	①積極的な資格取得指導がなされており、学科を越えた指導を継続していく。 ②ものづくりコンテストなど各種競技会への取り組みを、社会人講師と連携をとりながら充実させる。 ③2月に予定している合同課題研究発表会に向けて指導を徹底し、内容の充実を図る。	
	①計画的な進路指導を行ない、自己の適性を理解した進路選択ができる力を育む。 ②基本的な生活習慣やマナーを育成するとともに、社会の一員としての自覚と社会性を身に付けさせる。	①企業見学会、インターンシップ、進路LHR、進路説明会、諸検査等により生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できる力を養う。 ②補習等を充実させ学力向上をはかるとともに、希望者に対して進学模試、作文模試、公務員模試等を実施し個々の進路に応じた適切な指導を行なう。 ③全職員が継続して生活指導を行う。また、遅刻・早退・欠席防止のため保護者への連絡を密にするとともに、全職員による朝の登校指導を引き続き実施する。	①企業見学会、インターンシップ(工業学科全科で5日間実施)、進路LHR、進路説明会、諸検査等を計画どおり実施し、成果があった。 ②進学補習を実施して学力の定着を図った。一方、進学模試の受験希望の工業学科生徒が少なく、意欲の喚起に十分繋がられていない。 ③服装指導や挨拶指導と併行した朝の登校指導は、計画どおり継続実施している。遅刻、欠席については昨年同様に保護者への連絡を心がけており、全体として改善がみられる。		①3年生には、進路LHRや社会人基礎教養講座で、社会人としての心構えを育成していく。1、2年生には、進路説明会などで、生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できる能力を養っていく。 ②進路説明会などで、生徒の進路意識の高揚を図り、進学補習への自主的かつ積極的な参加の徹底を図るとともに、進学模試の受験を促進し、自発的に進路決定できる能力を養う。 ③基本的な生活習慣を確立するために、一貫した指導方針のもとで全職員が一致して継続した指導に当たる。同時に家庭との日常的な連絡を密にする。	
4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立	①「地域産業の担い手育成プロジェクト」が最終年を迎え、実りある結果が出るよう取り組む。	①「地域産業の担い手育成プロジェクト」の各メニューを推進するとともに、鳥工版デュアルシステムを新規実施する。	・鳥工版デュアルシステム 1学期3年課題研究で実施 M・S・E科で企業6社、生徒17名参加。 ・職員研修 M・E科で職員10名参加。 ・社会人講師 S・E科で生徒54名参加。 ・企業訪問 定着指導及び求人依頼のため、1学期に各科職員による企業訪問を実施し、情報交換することで連携を密にした。	B	・インターンシップで体験した職種が、自分の適性等に合致しているかどうかを進路LHR、進路希望調査等で確認し振り返らせる。 ・引き続き「地域産業の担い手育成プロジェクト」の各メニューを推進する。	
	①地域住民・中学生に対して、鳥工をPRしていく。 ②学校HPの更新により最新の情報を発信するよう努める。 ③学年別懇談会、学科別懇談会等の1年間のPTA行事の参加率が昨年度以上となるよう努める。	①各科で研究、製作したものを文化祭の「鳥工TEC」で展示し、地域住民に紹介する。 ②課題研究発表会を学校外で実施し、広く県民に公開する。 ③近隣中学生を対象とした「ものづくり教室」や小学生を対象とした「科学遊び広場」を実施し、ものづくりの魅力を発信する。 ④学校HP等で学校の取り組みを積極的に広報する。 ⑤学年別懇談会、学科別懇談会等の内容を工夫する。	・学科別PTA懇談会 保護者の参加は昨年並みであったが、各科とも好評を得ている。 ・学校公式HP 学校公式HPで進路についての情報発信を行う。一方、学校の取り組みを積極的に広報できなかった。		・学科別PTA懇談会は、アンケートを参考に科の特徴を出したものに する。 ・ものづくり教室の準備を進める。 ・学校公式HPの充実を図る。 ・2年進路説明会でも保護者向け講座を開催する。	

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕